電子データで編集する際は、記入欄を広げていただいて構いません。

第３号様式（第７条関係）

記入例

ステップアップ支援

事 業 計 画 書

３ページ以内で
ご記入ください

実施する事業について ※事業名、事業内容、対象者、実施日程・回数、参加者数、場所等を記入してください。 主な選考の視点 「公益性」 「事業実現性」 「自立性」	**事業名**：「地域のつながりを広げる高齢者交流・見守り事業」 市内の高齢者を対象に、交流会や見守りボランティア講座を開催し、地域住民同士が日常的に声をかけ合える関係づくりに取り組みます。 前年度の補助事業では高齢者交流会を開催しましたが、参加者の固定化や、交流会で生まれたつながりが日常的な声かけや見守りに十分つながっていないことが課題となりました。 今年度は、高齢者交流会を継続しながら、広報方法を見直して新規参加者の増加を図ります。さらに、新たな取組として見守りボランティア講座を開催し、交流会の参加者が見守り活動にも関われる機会を設けることで、交流の場で生まれたつながりを日常的な声かけや見守りへと発展させます。 具体的には、交流会を年４回、見守りボランティア講座を年３回実施します。講座では、地域での声かけや見守りの方法を学び、参加者が無理なく活動に関われるようにします。 【4～5 月】前年度の振り返り、協力者との調整、広報・参加者募集 【6 月】第 1 回高齢者交流会 【7 月】第 1 回見守りボランティア講座 【8 月】第 2 回高齢者交流会 【9 月】第 2 回見守りボランティア講座 【10 月】第 3 回高齢者交流会、地域での声かけ活動開始 【11 月】第 3 回見守りボランティア講座 【12 月】第 4 回高齢者交流会、参加者アンケート 【1 月】ボランティアとの意見交換会 【2 月】活動成果の集計、次年度の活動計画の検討 【3 月】事業の振り返り、実績報告書の作成 交流会は市内公共施設で各回 20 人程度、見守りボランティア講座は各回 15 人程度の参加を予定しています。	【記入のヒント】 ●事業名は何を目的とした事業かが伝わる名称にしてください。 ●ステップアップ支援を受けようとする団体は、これまでの活動を踏まえ、これまで行ってきた活動の何をどのように拡充するのか、または、活動の発展に向けた次の一歩として何に新たに取り組むのか、あわせて記入してください。 また、工夫した点や補助回数が２回目以降の団体は前回からの改善点なども記入してください。 ・誰を対象に、いつ、どこで、何回実施する？ ・参加予定人数は？ ・初めての人でも参加しやすい内容？ ・これまでの活動の何を継続し、新しく何を加える
事業の背景について 主な選考の視点 「公益性」	当団体では、前年度の補助事業を活用し、高齢者を対象とした交流会を開催しました。 参加者からは「外出するきっかけができた」「地域に知り合いが増えた」といった声が寄せられ、交流の機会をつくることができました。 一方で、参加者が固定化していることや、外出が難しい高齢者に活動が十分に届いていないことが課題となっています。また、交流会で生まれたつながりが、日常的な声かけや見守りには十分につながっていません。	【記入のヒント】 事業を実施しようと考えたきっかけや経緯、地域の現状や課題について、具体的に記入してください。

誰を対象に

改善点

活動の拡充

何を行う

何回実施

どこで、
参加予定人数は

課題

	そこで、これまでの活動で築いたつながりを生かし、交流の機会を広げるとともに、地域住民が互いに気にかけ、支え合える関係づくりに取り組むこととしました。	
事業の目的や効果について	**【事業の目的】** これまでの交流会で生まれた地域住民同士のつながりを生かし、高齢者が地域と継続的に関わる機会を増やすとともに、住民が主体的に声かけや見守りに取り組める地域の関係づくりを進めることを目的とします。 **【どのように「げんき」を届けたいか】** 高齢者が地域の人々と交流することで、外出する楽しみや人と会う喜びを感じ、地域活動に参加する意欲が高まることを目指します。 また、交流会をきっかけに新たな知り合いが増え、次の交流会にも参加したいと思えるようなつながりを育むことで、継続的な社会参加につなげたいと考えています。 さらに、見守りボランティア講座を通じて、地域住民が高齢者の暮らしや困りごとへの理解を深め、日常生活の中で自らあいさつや声かけを行うなど、身近なところから支え合いの行動を始めるきっかけをつくります。 交流会の参加者が見守り活動にも関わるなど、これまで活動に参加する側だった人が、地域を支える側としても活躍することで、新たな役割や生きがいを感じられるようになることを期待しています。 こうした一人ひとりの意識や行動の変化が、地域住民同士のつながりを広げ、互いに気にかけ、支え合える関係を育むことで、高齢者の安心感や地域全体の活力につなげていきたいと考えています。 **【「げんき」をどのように確かめるか】** 交流会の参加者にアンケートを実施し、外出する機会や地域住民との交流について、事業への参加前後でどのような変化があったかを確認します。 また、新規参加者数、継続参加者数、見守り活動に参加する住民の人数を把握します。 ボランティアへの聞き取りも行い、地域での声かけや交流がどのように広がったかを振り返ります。 「げんき」とは 人からまちへ、まちから人へと広がる前向きな 気持ちの変化・行動を「げんき」と表現しています。	**【記入のヒント】** 【事業の目的】 →事業の背景で記入した地域の課題や現状を踏まえ、この事業を通じて何を実現したいのか、どのような状態を目指すのかを具体的に記入してください。 【どのように「げんき」を届けたいか】 →この事業を通じて、参加者や地域に、どのような変化やつながりを生み出したいか記入してください。 ・これまで参加していなかった人に、どんな一歩を踏み出してほしい？ ・気持ちにどんな変化があるとよい？ ・活動後に、どんな行動を始めてほしい？ ・参加者同士にどんな関わりが生まれる？ 【「げんき」をどのように確かめるか】 （確認する方法の一例） ・アンケートをとる　・声で確認する（参加者の感想、インタビューなど）・行動で確認する（継続参加が増える、参加者が運営側にまわるなど）・関係の変化で確認する（参加者同士や他団体との交流が生まれたなど）・活動中の様子で確認する（子どもが自分から動くようになったなど）・数字で確認する（参加人数、協力者数など）・記録で確認する（活動日誌、写真、成果物など）

実現したいこと

どのような変化

つながり

どんな一歩

主な選考の視点
「公益性」

事業の広報 について	（使用予定の媒体にチェック） ■チラシ・ポスター　□パンフレットなどの刊行物 □ホームページ　□Facebook　□X（旧 Twitter） □Instagram □その他 SNS（　　） □市の広報紙　■市の広報掲示板　■口頭にて伝達 □その他（　　）	
今後の展望 について ※団体としての今後の展望をお書きください。 **主な選考の視点** **「発展性」** **「自立性」**	当団体は、地域の高齢者が安心して暮らせるまちづくりに継続的に貢献できる、地域に根差した団体へと成長していきたいと考えています。 現在は一部の会員が運営の中心を担っていますが、今後は新たな会員の確保や人材育成を進め、会員一人ひとりが主体的に団体運営に関われる組織を目指します。 また、地域の自治会や市民活動団体などとの協力関係を広げ、互いの経験や知識を生かしながら活動できる団体へと発展させていきます。 さらに、会費や寄附などによる自主財源の確保に取り組み、補助金に頼りきらない安定した運営基盤を整えることで、将来にわたって地域から信頼され、必要とされる団体を目指します。	**【記入のヒント】** 今後、団体としてどのように成長・発展していきたいか、将来の目標や目指す姿を具体的に記入してください。
事業の実施体制 について **主な選考の視点** **「事業実現性」**	団体の構成員 8 人で、次のとおり役割を分担します。 ・事業全体の企画・進行管理：2 人 ・交流会・講座の企画運営：2 人 ・参加者募集・広報：2 人 ・会計・活動記録：2 人 交流会や講座の開催時には、構成員全員で受付、会場設営、参加者対応などを分担します。 また、前年度の活動で協力関係を築いた地域住民やボランティアにも協力を依頼します。 見守り活動については、講座を受講した住民にも参加してもらい、団体の構成員以外にも活動の担い手を広げていきます。 活動後には構成員で振り返りを行い、運営上の課題や改善点を共有し、次年度以降も継続して活動できる体制を整えます。	**【記入のヒント】** ・現在のメンバーで何を分担する？ ・誰が事業全体を進める？ ・受付、広報、会計、安全管理は誰が担う？ ステップアップ支援申請団体は記入必須

備考　「事業の実施体制について」欄は、市民活動ステップアップ支援補助金の交付を受けようとする団体は必ず記入してください。市民活動スタート支援補助金の交付を受けようとする団体は任意で記入してください。